

高頻度の片頭痛を患う患者における疼痛ならびに気分障害に対するオステオパシー手技療法の効果

Mariagrazia D' Ippolito, Psy; Marco Tramontano, DO (Italy); Maria Gabriella Buzzi, MD, PhD

抄録

背景：片頭痛に関連した実質的な機能障害は、身体的および心理的、両面における影響がある。そして気分障害はしばしば片頭痛患者に併存し、片頭痛の活動性に悪影響を及ぼすことが知られている。

目的：高頻度の片頭痛患者における、気分障害と疼痛に対するオステオパシー手技療法 (OMTh：外国で教育を受けたオステオパスによる手技療法) の効果を調査すること。

方法：2011年から2015年に、サンタルチア財団の頭痛に対する科学的な入院治療施設において、オステオパシー手技療法 (OMTh) により治療された高頻度の頭痛患者の医療記録の後ろ向きレビュー。臨床評価には、頭痛による日常生活支障度評価スケール (HDI)、頭痛インパクトテスト (HIT-6)、ハミルトンうつ病評価尺度 (HDRS)、状態—特性不安尺度 (STAI) の X-1 と X-2 が使用された。

結果：オステオパシー手技療法 (OMTh) プログラムに参加し、高頻度の片頭痛と診断を受けた患者 11 名 (女性 6 名、平均年齢 47.5 [7.8]) の医療記録が包含基準を満たし、研究に含まれた。最初の訪問時 (T0) と 4 回目の OMTh セッション後 (T1) に得られたアンケートスコアを比較すると、STAI の X-2 (T0: 43.18 [2.47]; T1: 39.45 [2.52]; $P < .05$) , HIT-6 (T0: 63 [2.20]; T1: 56.27 [2.24]; $P < .05$), そして HDI (T0: 58.72 [6.75]; T1: 45.09 [7.01]; $P < .05$) においてスコアの有意な改善が観察された。

結論：この予備研究は、気分障害を併存した高頻度の片頭痛患者が 4 回の 45 分間 OMTh 後に有意な改善を示したことを明らかにした。気分障害を併発する高頻度の片頭痛患者に対する OMTh の効果に関するさらなる調査が必要である。

原論文

Effects of Osteopathic Manipulative Therapy on Pain and Mood Disorders in Patients With

High-Frequency Migraine

Mariagrazia D'Ippolito, Psy; Marco Tramontano, DO (Italy); Maria Gabriella Buzzi, MD, PhD

The Journal of the American Osteopathic Association, June 2017, Vol. 117, 365-369. doi:
10.7556/jaoa.2017.074

翻訳者 松村暁 MRO(J)

